

西柴防災ニュース

西柴団地自治会防災部
横浜市金沢区西柴四丁目1-11

11月6日（日）

大規模災害発生時の防災訓練を実施しました

ホームページでもご覧いただけます。

住みよい街 西柴団地

QR
コード

昨年、一昨年とコロナ禍で中止していましたが西柴小学校地域防災拠点管理運営委員会主催（西柴団地、サウス横濱自治会で構成）の防災訓練が3年ぶりに開催されました。



開設確認・防災拠点設置宣言



災害時の避難所収容人数、受付方法、感染対策などコロナ禍の経験により災害時避難所の運用変更があり、新たな訓練で、今後の課題など再確認、検討するべき事などが抽出され有意義な訓練になりました。

避難所設営



避難受付



「はまっこトイレ」設営



自家発電 ポンプ動作確認



総務省消防庁の速報によると、2022年1月～6月末までの上半期、火災全体での出火原因1位は、たき火によるものでした。

(右図出典：総務省HPより)

[家庭での火災原因]

一方、住宅火災（5,867件）の出火原因では、

- 1位 コンロ（917件:15.6%）
- 2位 たばこ（685件:11.7%）
- 3位 ストープ（538件:9.2%）
- 4位 配線（397件:6.8%）

の順となっています。

昔は、たばこが常に1位だったのですが、ここ数年ではコンロが最多になる事が多いようです。愛煙家の電子たばこへの移行が進んだのが原因でしょうか？（個人的な感想です）。放火自殺者を除く火災による死亡者数では、ストーブ、たばこ、電気電話等の配線の順になっています。

データ元 および写真出典：消防庁HP統計情報より

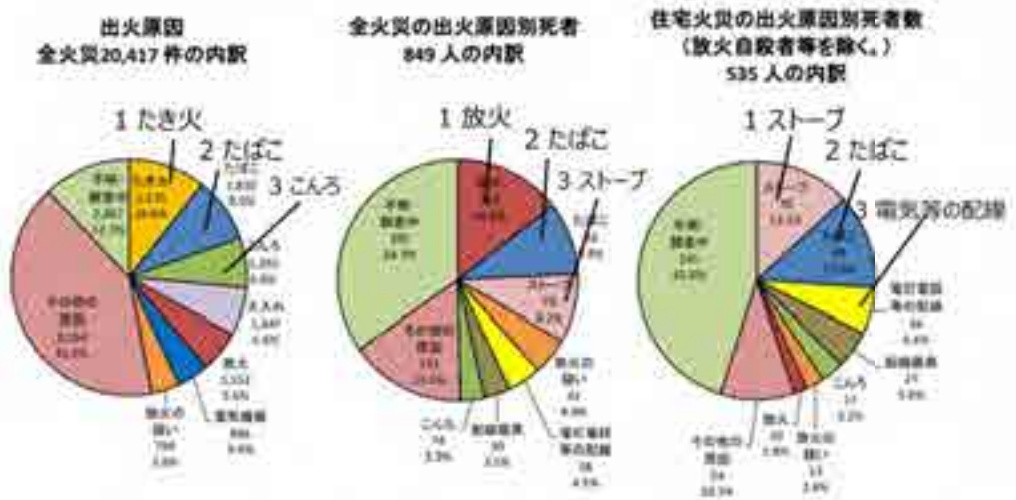
総務省 消防局HP統計 火災速報
災害情報 | 総務省消防庁

(fdma.go.jp)

QRコード



万が一コンロから火が出た場合、消火器による初期消火が有効です。いざという時の為に、消火器の使い方は、前回の防災ニュースN0.51号に掲載していますのでご参照ください。



令和4年（1～6月）における火災発生状況（概数）

[ガスコンロ安全性の義務化について]

平成20年よりガス事業法第39条の2第1項に規定する「ガス用品」及び液石法第2条第7項に規定する「液化石油ガス器具等」として、安全装置の装着が義務化されました。それでもなお家庭での出火原因の1位になっています。現在販売されているガスコンロには、過熱防止装置、立ち消え安全装置が装着されていますが、平成20年以前に購入されたガス器具には安全装置がない機種や片側コンロだけに温度センサーがついている機種もあり、**古い器具をお使いのご家庭は特に注意**が必要です。



[ガスコンロの安全性機能について]

◆法令義務化による必須安全機能

- 1：調理油過熱防止装置（鍋底の温度が約250度になると消火する）
- 2：立ち消え安全装置（調理中に立ち消えたとき消火する）

◆業界団体の必須安全機能など

- 3：早切れ防止装置（過熱防止装置で早切れしてしまうのを防ぐために、調理中250度になると、一旦小火にして温度調節を始め、フライパンの温度が上がりすぎた時途中で消火することを防ぐ機能）
- 4：消し忘れ消火機能（一定時間を過ぎると消火する機能）

◆各メーカー任意による安全装置

- 5：鍋無し検知（鍋をのせていないと点火できない）
- 6：焦げ付き消火装置（調理中に焦げ付き始めると自動的に消火する機能）などがあります。

災害に対するご家庭での備え ～これだけは準備しておこう！

(出典：総務省HPより)

【家具の置き方工夫していますか】

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがをしました。大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策を講じておく必要があります。

- ・家具が転倒しないよう、家具は壁に固定しましょう
- ・寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かないようにしましょう。
- ・置く場合も、なるべく背の低い家具にするとともに、倒れた時に出入り口をふさいだりしないよう、家具の向きや配置を工夫しましょう。
- ・**手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスル**を備えておきましょう。

【食料飲料など備蓄十分ですか】

電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備えて、普段から飲料水や保存の効く食料などを備蓄しておきましょう。防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中で利用されている食品等を備えるようにしましょう。

- ・**飲料水 3日分** (1人1日3リットルが目安) ・非常食 3日分の食料として、ご飯(アルファ米など)、ビスケット、板チョコ、乾パンなど・生活用品トイレットペーパー、ティッシュペーパー・マッチ、ろうそく・カセットコンロ など
- ※ **大規模災害発生時**には、「**1週間分**」の備蓄が望ましいとされています。

【非常用持ち出しバッグの準備、できていますか】

自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。非常時に持ち出すべきものをあらかじめリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

【ご家族同士の安否確認方法、決まっていますか】

別々の場所にいるときに災害が発生した場合でもお互いの安否を確認できるよう、日頃から安否確認の方法や集合場所などを、事前に話し合っておきましょう。災害時には、携帯電話の回線がつかなくなり、連絡がとれない場合もあります。その際には災害伝言ダイヤル(局番無し 171)などのサービスを利用しましょう。

首相官邸HP QRコード
災害時 ご家庭での備え



東日本大震災、熊本地震、熊本豪雨

を経験した防災士 柳原さん

3度の災害を経験した防災士に聞く、防災グッズで本当に必要なものとは

出典：東京ガス ウチトコ 掲載内容のご紹介(抜粋)

<https://tg-uchi.jp/topics/7542>

QRコード



【防災グッズの必需品1】

ライフライン寸断で一番困るのは「トイレ」。災害用トイレは人数×3日分を想定して準備する。自作ダンボールトイレの紹介もしています。

【防災グッズの必需品2】

なくてはならない「水」は、ボトルを小分けにして準備を。**持ち運びの便利さ**や水以外の飲み物でもOK、**500mlのペットボトル**がおすすめです。

【防災グッズをそろえるコツ1】

災害下の3つの「不」を想定する「大災害下では**〈不便〉〈不快〉〈不自由〉**という**3つの〈不〉**を経験します。当たり前にあるはずの**ものがない不便**、**衛生面や環境が悪化することによる不快**、**普段なら難なくできることができない不自由**この3つを少しでも回避するよう備えるのが、防災グッズです。ですから**防災グッズに“絶対”の形はなく、人によって必要なものは変わる**そうです。

【防災グッズをそろえるコツ2】

救援が来るまで最低3日間は自力でしのぐようにする。

【防災グッズをそろえるコツ3】 非常持ち出し品は3つに分けて備える。

柳原さんがおすすめしているのは、

★「常に携帯しておくもの」

★「非常用持ち出し袋に入れておくもの」

★「使いながら備蓄するもの」



の3種類に分けること。こうしておくと、分かりやすく整理できるそうです。実際に経験した方の話でとても説得力があります。

【非常持ち出し品の三分類例】

★常に携帯しておくもの

■ウェットティッシュ ■小型の懐中電灯 ■鏡 ■常備薬(鎮痛剤、胃腸薬など) ■化粧品 ■生理用品 ■はさみ ■つまようじ ■ビニール袋 ■綿棒 ■リップクリーム ■輪ゴム ■応急救急グッズ(絆創膏など)

★非常用持ち出し袋に入れておくもの

非常用持ち出し袋は一人一つ、または大人用と子ども用に分けて用意しておく、重量を分散できるのでおすすめ ■おしりふき ■イヤホン ■赤ちゃんのおむつ ■お金(特に小銭を多く) ■ヘッドライトまたはランタン ■ラジオ(手回し充電タイプ) ■電池 ■トイレットペーパー ■折り畳みポリタンクなど水を持ち運ぶもの □着替え(1回分) □うわばき □はさみ □筆記用具 □水など飲み物(500mlペットボトル2～3本) □お菓子 □おもちゃ

★使いながら備蓄するもの

日々の生活で使いながら補充していく「ローリングストック」 ■パックご飯や缶詰、レトルトなど保存のきく食料 ■水、お茶などの飲料(最低3日分) ■カセットコンロ ■ガスボンベ ■タオル ■暑さ・寒さ対策(うちわ、カイロなど) ■電源(モバイルバッテリー、電池など) ■衛生用品(除菌シート、トイレットペーパーなど) ■衛生用品(トイレットペーパー、除菌シートなど) ■お菓子・コーヒーなどの嗜好品

西柴団地、避難場所はどこ？

[金沢区の避難場所\(yokohama.lg.jp\)](http://yokohama.lg.jp)

QRコード



避難場所の種類（横浜市 HP より）

いつとき避難場所	地震発生後、周囲の状況確認や次の避難場所（広域避難場所、地域防災拠点など）に移動する場合に地域住民が集結・待機する場所です。 いつとき避難場所は、自治会・町内会で事前に選定しています。
広域避難場所	地震に伴う大火災が多発し、炎上拡大した場合、その輻射熱や煙から身を守るために避難する場所です。金沢区では 11 か所を広域避難場所として指定しています。
地域防災拠点	震災により家が倒壊または、倒壊の危険がある場合に、一時的に避難生活を送る場所です。区民の皆様の避難場所として、金沢区では 26 か所の小中学校を、地域別に指定しています。 また、食料・水・救援物資などの配布場所、生活情報の提供場所、家族の安否確認などを行う場所となります。 また、各拠点では、地域住民の皆様を中心とした「地域防災拠点管理運営委員会」が組織され、災害発生時にはこの運営委員会が地域防災拠点を管理運営します。 また、運営委員会では平常時にも防災対策などについて活動しています。



大地震の時

西柴小学校（地域防災拠点）

対象地域

西柴 1 丁目 14 番地の一部・15 番地～17 番地・18 番地の一部・19 番地の一部・21 番・25 番地の一部、西柴 2 丁目～4 丁目、柴町 1 番地～7 番地・13 番地～31 番地・32 番地の一部、金沢町 184 番地～193 番地

広域避難場所 長浜公園一帯

風水害の時

西柴中学校（風水害避難場所）
（体育館）